

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ハウス 叶			
○保護者評価実施期間	令和7年3月23日 ～ 令和7年3月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数)	15人
○従業者評価実施期間	令和7年3月23日 ～ 令和7年3月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（臨床心理士、看護師）で構成されており、アセスメント力と指導力がある。	必ず毎日全員で児童について話す機会を設けている。 また、休みのスタッフに関してはすぐに見れるような情報共有書を用意している。 他に、検査結果などを理解できるため、アセスメントや保護者への助言に活かしている。	専門職ならではの保護者支援を行いたい。
2	集団での療育と個別での療育と両方を行える。	必要な子には必要な支援を、その判断も専門職ならではのからこで行える。	引き続きスタッフの底上げをしながら支援に取り組みたい。
3	強度行動障害児、重度知的障がい児、小学校高学年から高校生にかけての思春期対応を行っている。	その子その子に合わせた関りを行い、○○だからと決めつけは行わず、傾聴を基本に必要な支援をその都度変えながらこどもに寄り添っている。	引き続きスタッフの底上げをしながら支援に取り組みたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職で構成されている為、支援力のないスタッフを雇うとすぐに辞めてしまうので人手不足なところがある。	求めるものが高くあること。	同じレベルの者を雇うか、新卒の者を雇うか。
2	施設が民家のため、それが良いと言う児童もいれば、働き手や飛び出し、逸脱行動の激しい児童は受け入れづらい。	建物の仕組み	移転を検討している。
3			